

2026 年 9 月 12 日～13 日

JWA JAPAN PROTOUR 2026-2027 FOIL SLALOM 第 1 戦

浜の宮カップ 2026

大会レポート 担当者：JPN 69 中嶋颯

[大会概説]

◇大会名称：JWA JAPAN PROTOUR 2026-2027 FOIL SLALOM 第 1 戦

浜の宮カップ 2026

◇開催日程：2026 年 9 月 12 日(土)、13 日(日)

◇開催場所：和歌山県和歌山市毛見 浜の宮ビーチ

◇主催：一般社団法人 日本ウインドサーフィソ協会(JWA)

◇協賛：KCS / エンタープライズジャパン株式会社 /

株式会社ワソストップエージェンシー / 株式会社オレンジパオ

◇協力：マリソスポーツクラブ KAZE / スターボードジャパン株式会社 /

セブンシーズ

◇大会参加者数： プロメソズクラス 36 名 / プロウィメソズクラス 3 名 /

スペシャルクラス 14 名 /

オープン/ジュニア・ユースクラス 5 名

◇今大会の位置付け：今大会は JWA が主催するプロツアーの FOIL SLALOM 部門における 2026-2027 シーズソの初戦に当たる大会となっており、ワールドカップ前に各選手が調整を行える貴重な大会でした。

◇大会会場：今大会会場となりました和歌山県浜の宮ビーチは、2 年ぶりに

FOIL SLALOM の大会の開催となり、年中を通して非常にいい風が吹くゲレンデとなっております。今大会の 1 週間後にはウイソグと

カイトの大会も開催されるなど、マリンスポーツを行うに最適な環境をそろえた会場となっています。

[大会模様]

◇DAY.1

公示の記載通り、7時30分よりレジストレーションが開始され、8時30分より開会式並びにセーラーズミーティングが行われました。

その後、昼頃より北から北東にかけての風が入り始め、海上に出艇する選手も散見されましたが、終止 ave7knot に達することはなく、走ることはできるもレースは行えないと判断され、1日目はノーレースで終了いたしました。

以下、1日目の海上の様子は。





今大会海上本部戦及びスタート船



今大会フィニッシュ船

1日目のリリース後、各選手によるビーチクリーンが実施されました。

以下、ビーチクリーンの模様です。





◇DAY.2

2 日目も公示の記載通り 8 時よりセーラーズミーティングを行い、レースに向けて選手、運営共に準備を進めましたが、午前中は雨が降り、無風の時間帯も多くなっていたため、ウェイティングが続きました。

その後雨が上がり、風向が西から南西の方角に振っていき、風速も ave8~12knot、max14knot ほどにまで上昇したため、12 時 30 分にプロクラスの第 1 ヒートスタート予定でコースが設定され、12 時に D 旗が掲揚されました。

プロクラスは男女混合の 39 名が出場し、4 ヒートに分かれたクォーターファイナルからの勝ち上がり制で実施されました。

クォーターファイナルでは D 旗掲揚時に比べると風が落ち、AVE 8knot、MAX 10knot ほどとなり、大きいセイルや大きい羽を選択した選手がセミファイナルに進出していた印象でした。メンズに混ざったウィメンズの選手たちもセミファイナルに多く勝ち上がり、レースを大いに盛り上げる存在となっていました。

セミファイナルでは、クォーターファイナルに比べ風向は変わらないものの、風速が上がり、AVE 10knot、MAX 12knot ほどとなりました。第 5 ヒートで 2 つのクラッシュを含む波乱の展開の中、そこでチャンスをつかんだアマチュア選手が

ファイナルに勝ちあがるなど、非常に見ごたえのあるレース展開となりました。

ファイナルは、セミファイナルと同様のコンディションの中で行われました。

レース展開といたしましては、下からジャストで出た富澤選手(JPN 11)、真ん中から出た穴見賢太選手(JPN 6)、上からフルスピードでスタートした田島選手(JPN 75)が第1マーク手前で早くも抜け出し、最後まで1位争いを繰り広げましたが、終始安定していた富澤選手が1位でフィニッシュしました。

以下、レース時の模様となります。



第5 ヒート 1位通過 金上選手(JPN 16)



第6 ヒート



ファイナル 田島選手(左) / 富澤選手(真ん中) / 穴見賢太選手(右)

プロクラスの第1レース終了後は、風速が少し落ちた中で、プロクラスと同じコース設定でスペシャルクラスが行われました。当初は2ヒートに分けた勝ち上がり制が予定されていましたが、レース運営上の都合により14名の一斉スタートによる一発決勝に変更となりました。Back to backでオープン/ジュニア・ユースクラスを間に挟んだ2レースが行われ、1レース目に2位、3位につけていた田中選手(JPN 600)や梶山選手(JPN 9111)が2レース目でチンをしてしまうなどの波乱がある中、両レース共に1位を取った平野選手(JPN 182)が見事優勝を飾りました。以下、レース時の模様となります。



第1レース 梶山選手(左) / 平野選手(右)



第2レース 小島選手(JPN 40)

スペシャルクラスの合間で、オープン/ジュニア・ユースクラスが1レース行われ、終始安定したフォイリングを見せた永藤選手(JPN 305)がジュニア・ユースクラスと総合の両方で1位を獲得。オープンクラスでは、後藤選手(JPN 727)が1位となりました。

以下、レース時の模様となります。



ジュニア・ユースクラス 永藤選手



オープンクラス 後藤選手

スペシャルクラスの第2レース終了後、風向の変化に伴い、マークを打ち換えての次レースも検討されましたが、タイムリミットとなってしまう全クラス終了となりました。

全レース終了後、公示の記載通り、16時から表彰式並びに閉会式が行われました。
以下、表彰式並びに閉会式の模様となります。



オープンクラス入賞者 1位 後藤記之選手(JPN 727 真ん中)
2位 花咲薫平選手(JPN 8111 左)
3位 光貞宏選手(JPN 229 右)



ジュニア・ユースクラス入賞者 1位 永藤選手(左) / 2位 菱沼選手(JPN 1070 右)



スペシャルクラス入賞者 左から 1位 平野誠選手 /
 2位 小島久司選手 /
 3位 横尾颯太選手(JPN 847) /
 4位 田中響選手 /
 5位 岩永智洋選手(JPN 228)
 6位 大神健二選手(JPN 412)



プロクラスベストアマ 田中響選手(メンズ 左) /

松浦花咲実選手(JPN 32 ウィメンズ 右)



プロウィメンズクラス入賞者 1位 穴山未生選手(JPN 311 真ん中) /

2位 須長由季選手(JPN 470 左) /

3位 松浦花咲実選手(右)



プロメNZクラス入賞者 1位 富澤慎選手(真ん中) /

2位 穴見賢太選手(左) /

3位 田島航選手(右)



地元ショップ マリンスポーツクラブ KAZE 代表 尾川潤様



JWA SLALOM 委員会委員 穴見知典選手(JPN 60)



選手集合写真

[大会総括]

まず初めに、今大会を開催するにあたって、開催の誘致や地元地域との調整等にご尽力いただきました、地元ショップのマリンスポーツクラブ KAZE 代表の尾川様並びに、大会開催にご理解いただいた日頃より浜の宮ビーチを愛用される地元セーラーの皆様、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。また、ご協賛いただきました各社の皆様にも心より感謝申し上げます。

今年も例年通りに FOIL SLALOM のシリーズ第 1 戦を関西地域のゲレンデにて開催いたしました。前年度の課題として挙げさせていただいた参加選手のゲレンデの偏りも、近年のアマチュア大会の盛り上がりや、各ゲレンデでのショップの皆様や各選手による大会参加のお声かけの甲斐もあり、中部地方や九州地方からの参加者も確実に増加傾向にあり、前年度と比べると少しずつ改善されているように感じられました。これにつきましても、ご尽力いただいた皆様に改めまして感謝申し上げます。

今シーズンも今大会を皮切りに、第 2 戦の津久井浜カップ、ワールドカップ、アマスラとスラロームの大会が続いてまいります。各大会がより一層盛り上がるよう、さらなる参加選手の拡大や、レースレベルの向上に向けてプロ選手ともども尽力してまいりますので、今後とも、JWA 及びスラローム委員会へのご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。